

看図アプローチをキーワードにした校内授業づくり研修の試み

—南筑高校の事例—

鹿内 信善* 佐田 明菜** 中尾 慎矢** 石山 信幸**

The Practices of the Figurative-sign-interpretation (KANZU) Approach in the High School Japanese Language Class, Geography Class and Mathematics Class

Nobuyoshi SHIKANAI, Akina SADA*, Shinya NAKAO*
and Nobuyuki ISHIYAMA*

概要

看図アプローチを用いた高校での授業づくり事例を3つ報告した。看図アプローチによる授業づくりレパートリーを増やすことができた。また、看図アプローチは若手の教員でも授業づくりにかせること、看図アプローチによって教員自身のアクティブ・ラーニングも促進されること、なども見出された。ただし、この結果は事例研究によるものである。今後さらに研究を蓄積していく必要がある。

キーワード：看図アプローチ 授業づくり 教科教育 アクティブ・ラーニング

I. 目的

本論文の第1筆者鹿内は、これまで2回、南筑高校研修会の講師を務めてきた。研修会の内容は看図アプローチを用いた授業づくりに関するものである。看図アプローチとは、看図作文研究の成果を取り入れた授業づくりの方法である(鹿内 2015a)。看図作文は、中国で行われている作文指導の方法である。これは、文字通り絵図(ビジュアルテキスト)を見て作文を書いていく方法である。鹿内は、看図作文に、現代的な学力のひとつであるビジュアルリテラシーを育成していく方法としての可能性を見出した。そこで、中国で行われている看図作文に改良を加えて、ビジュアルリテラシーを育成する方法となる「新しい看図作文」を考案し、その普及にも努めてきた(例えば鹿内 2003, 2010, 2014)。さらに「新しい看図作文」研究で蓄積された研究成果を活用して「看図アプローチ」という授業づくりの方法も開発している(鹿内 2015a)。

看図アプローチとは絵図・写真・グラフ等のビジュアルテキストを読み解き、読み解いた内容を発信していくプロセスを含んだ授業づくりの方法である。看図アプローチは、有効な協同学習ツールになる(鹿内 2015a)。

これまでの2回の研修会で南筑高校の多くの教員が看図アプローチについての理解を深めてくれた。看図アプローチに関心をもってくれる教員、さらには看図アプ

プローチによる授業づくりに取り組んでくれる教員も多くなってきた。2015年度より鹿内は北海道教育大学から福岡女学院大学に異動した。それまでの南筑高校との連携は北海道⇄九州という長い距離を隔てて行われていた。鹿内の異動によって南筑高校との物理的な距離が近くなり連携をとりやすくなった。これを機に南筑高校の複数の教員が「看図アプローチによる授業づくり校内研修会」を企画した。本稿はその実践報告である。現在、看図アプローチの有効性を検証する研究が様々な教科や領域を対象として行われている(例えば鹿内 2015b, 2015c, 鹿内他 2016a, 2016b, 溝上他 2016)。本稿は看図アプローチの有効性検証研究の中に位置づけられる。さらに「看図アプローチ」をキーワードにした授業づくりレパートリーを広げていくことも目的としている。

看図アプローチはアクティブラーニングツールのひとつでもある。これまでにアクティブラーニングは様々な定義づけられてきた。しかし、どの定義を読んでも具体的な授業イメージがわいてこない。その原因として鹿内は次の2つのことを仮定した。ひとつは授業をつくる教師の側から見た定義がないこと。もうひとつは、難解な言葉を遣って定義づけがなされていること、である。そこで鹿内は、教師の立場から、かつ、わかりやすい言葉でアクティブラーニングを次のように定義した。「学習者の脳にスイッチを入れてあげること。学習者の脳をきもちよく回転させてあげること。教師がこれら2つのこ

*福岡女学院大学

**久留米市立南筑高等学校

とをしてくれれば成立するのがアクティブラーニングである。(鹿内他 2016a)」

看図アプローチはアクティブラーニングを促進する。看図アプローチは、生徒のみならず教師のアクティブラーニングも促進するのではないだろうか。この可能性を検討することも目的とする。

II. 方法

授業者等

3名の教員が看図アプローチを用いて設計した授業を公開する。3名の担当科目および教職歴は次のようになっている。佐田明菜(国語)ー非常勤講師期間を含めて教職歴6年3ヶ月。中尾慎矢(地理)ー実習助手期間を含めて教職歴5年。石山信幸(数学)ー非常勤講師期間を含めて教職歴14年。このうち、中尾と石山は鹿内の「看図アプローチ」研修を受けている。佐田は「看図アプローチ」に関する書籍を通して看図アプローチについての理解を深めてきた。

公開授業日等

公開授業は、2015年12月3日午前中に行った。授業は録画し分析資料とした。

III. 授業の実際と授業者のふりかえり

III-1 国語の授業

看図アプローチによる国語の授業は、これまでに、看図作文の授業実践が数多くなされている。今回、佐田は、これまでまだ試みられていない看図アプローチによる古典の授業づくりにチャレンジした。教材は『徒然草』の「奥山に猫またといふものありて」である。佐田の授業構成がわかる程度に抜粋した授業記録を以下に載せておく。授業構成の把握を目的としているため教師発言・学習者発言は大幅に割愛してある。

目標呈示

T 今日はまだ教科書開かない。今日は初めて見ました、この絵からいろんな情報を取り込んで話をつかんでみましょうっていうのをやってみます。(板書「目標 絵から得られた情報で物語を推測する」)

絵図呈示

教科書に掲載されている挿絵を教師がアレンジして描き直したもの(図1)を呈示する。



図1

Q1の指示

T この絵を見て、Q1のところです。絵を見て得られる情報や感じたことを書き出してもらいます。みんなの邪魔にならないような例を出してみると…(板書「人が三人いる。」) みたいな感じです。何でもいいのでこの絵を見たところで得られる情報を、今みんなが持っているプリントのQ1のところの□の中に書き込んでいってください。3分間程度です。箇条書きでもいいし、文で書ける人は文にしてもらっても構いません。

Q1に関するグループシェアの指示

T はい、じゃあいったん手を止めて前向いてください。Q1についてグループで意見を交換しましょうってことでグループ協議を行ってもらいます。やり方はこの順番で。ひとり1分半くらい使って、っていう形でやっていきます。みんなのプリントに□の中に()があって何々の意見っていうふうを書いてあると思います。ここに班のメンバーの名前を書いてその人がどういうことを言ったかっていうところをきちんと書いていくようにしてください。

Ss (グループでのシェア)

T (全部書けたら)4人で探して。もっとないかな。(注:グループによる作業速度のズレを調整するための指示)

看図作文の指示

T また個人でやってもらうんですが、もう1回絵をよーく見ながら、もっといろんな面から考察してみてください。もしかしたらここには載ってないけども何かしら隠された事実があるんじゃないかとか、というところも自由に考えてもらって構いません。昔話的な文章に直してみましよう。この絵からちょっと物語をつくってましよう。

T (作文記述中の教師発言) どうしてももっと長く書きたいっていう人がいたら裏側は白いので、裏側に書いてくれても構いません。(注:教師が想定した以上に生徒たちはたくさん書いている。)

看図作文シェアの指示

T 今から意見交換にとりあえず6分間、時間をとりますので、6分間で意見交換をしてください。で、そのあと3分間程度とりますので意見をまとめるという時間にします。では、スタート。(タイマーのスイッチオン)

Ss (グループでのシェア)

※どこかのグループから「おー、すごー天才やわ。」「犬がお坊さんを突き落とす？そう見える？」といった声が聞こえる。

グループでの看図作文まとめの指示

T はい、手を止めてください。盛り上がっているところもいったん手を止めて。班としてこういう話かなあっているところでまとめてみてください。時間はちょっと短いんですが、3分間程度でというところになります。(タイマーのスイッチオン)

Ss (グループでの話し合いー意見のまとめ)

全体交流の指示と全体交流の様子

T はい、前向いたら静かにします。では。私が勝手に決めてもいいんですが、ぜひ発表したいって班があったら手をあげ…

S (挙手)

T おっ、A君手あがった。

Ss (笑)

T じゃ、いこ。

Ss (グループの中で譲り合っている)

T 手あげたからA君いこうよ。はい、みんな聞いてね。

A 昔あるところに3人の男と1匹の犬がいました。ひとりの男が火遊びをして髪の毛が燃え尽きたので、

Ss はははは。(笑)

A …頭に毛が欲しいと思って犬の毛をむしりとろうとして、

Ss はははは。(笑)

A 犬の力が強すぎて川に突き落とされました。

Ss はははは。(笑)(手を叩いて笑っている者もいる)

A …犬は、

S なげーや。

Ss はははは。(笑)

A (グループメンバーに何か確認して)…お坊さんは、2人の男に見られるのが恥ずかしくて背泳ぎをして家に帰りました。

Ss (拍手と大爆笑)

T すごい。いろんな情報が出てきたね。

S やべー。

T 髪の毛燃えたらしい。

Ss はははは。(笑)

T で、髪の毛がほしくて犬の毛をむしって。犬が強くて落とされて、見つかったのが恥ずかしくて背泳ぎで

逃げたと。背泳ぎだって。

Ss はははは。(笑)

(このあと2つのグループに指名した。授業記録は省略。)

教科書教材への接続

(3つ目グループの看図作文発表後)

T という話だったそうです。はい、ここまでいろいろ考えてもらったんですが、ついに教科書を使います。じゃあ240ページを開いてください。

Ss (教科書を開く)

T 実はこれ(今までやってきた看図作文は)240ページのお話なんです。で、じっくり読まなくて結構ですので、ざっくり読んで改めて絵を、この絵なんです。実は、改めて絵のことを整理してみてください。時間はそんなにもうとれませんので読んで情報整理することを含めて5分間程度とってみたいと思います。じゃあ始めてください。ひとりでやるよ。(タイマーのスイッチオン)

Ss (教科書中の「奥山に猫またといふものありて」を黙読)

T じゃあ前向いてください。顔上げて。読むだけで精一杯だったっていう人も中にはいるでしょうから、Q5。ここで班をつくって、今日最後の班活動ですが、みんなで色々話し合ってみてください。今まで絵をみただけで考えていたことと何か違うところあったかなとか、そういうふうな視線で話していってみてください。はい、では、まとめをする時間がとれませんでした、時間いっぱいしっかり話し合ってください。どうぞ。

Ss (グループでの話し合い)

※授業記録ビデオには「伝説上の動物」「犬か猫か狐かわからない」等の生徒発言が録音されている。

(終業のチャイム)

T はいじゃあ終わってしまいましたので、いったん机戻しましょう。

Ss (机を移動する)

T まとめをする時間はありませんでしたが、みんな一生懸命活動してくれましたので、たぶん次回の授業にいかすことができると思っています。次回は予習が必要です、写しておいてください。

この授業および看図アプローチそのものに関する授業者佐田のふりかえりを次に載せておく。

古典作品と看図アプローチ (佐田明菜)

生徒たちにとって「古典作品を読む」ということは、苦痛を伴うものである。というのが私の持論だった。私自身も高校時代に古典には大変苦しめてもらった。

そもそも、文章を読むということに抵抗を感じている生徒たちが、日本語であって日本語ではないように感じる古典作品を読むということが面白い訳が

ない。実際これまで接してきた生徒たちは古典の時間に全身から「退屈だ」「わからない」「やってどうなる」という雰囲気を醸し出していた。そのような雰囲気の中での授業は苦痛以外の何物でもなかった。なんとかして生徒たちに古典に興味を持ってもらいたい、と思い試行錯誤していたときに看図アプローチに出会った。

看図アプローチを授業に導入したところ、生徒たちの目つきが明らかに変わった。看図アプローチで古典作品にアプローチすることで興味を持つことができ、読解にも積極的になった。その上、成績が飛躍的に伸びた。「古典の時間が楽しみだ」「古典が好きだと言える日が自分に訪れるなんて思ってもみなかった」というような感想が続出した。看図アプローチによって私の持論は見事に打ち崩された。

古典に興味を持たせるということに関して、看図アプローチは非常に有効だ。授業をしている私自身も非常に楽しい。笑顔の生徒と一緒に古典の授業をすることができる日が来ることは想像してなかった。今後は、見せるビジュアルテキストの研究を重ねてより一層の興味を引き出していくようにしていきたいと思う。

Ⅲ-2 地理の授業

国語の授業と同様に授業の組み立てがわかる程度に授業記録を抜粋して紹介していく。

ビジュアルテキストの呈示

T 今日写真を見ながらやっていきたいと思います。今から何枚かですね、写真とか地図とかを出します。その共通点は何かっていうところ（考えながら見てください）。

（この教示のあと写真や地図をプロジェクターで次々と呈示していく。写真だけではなく、地図もビジュアルテキストにしているのがこの授業の特徴である。ビジュアルテキストは、教科書やネットから取ってきたもの、オリジナルなもの、様々である。ビジュアルテキスト呈示の様子を図2に示しておく。）



図2

中心発問1

全部で11枚のビジュアルテキスト（写真や地図）を

呈示後、次のように授業をすすめた。

T 写真（写真や地図のスライドのこと）をずっと見ましたが、これの共通点は何ですか。共通点。

S 写真。

S 写真。

T 写真やない。

Ss (笑)

T 共通点わかる人、今バーッと見ましたけど。

Ss (数秒思考)

T ヒントは、気候ですね（11枚のスライドを次々と切り替えていく）。

Ss (数秒思考)

S あったかい。

T うん。S2。

S 温帯。

T うん。温帯です、温帯。（板書）

このT発言のあと、個人思考の準備として図3のような板書を完成させる。

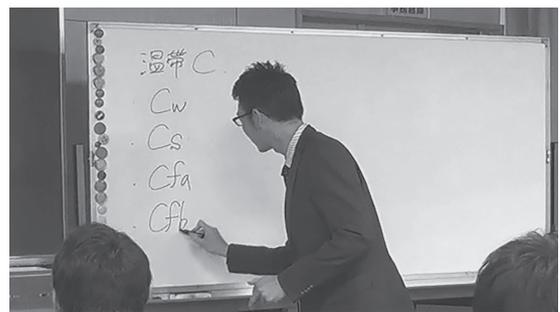


図3

個人思考指示

T 12枚写真（実際には写真と地図。スライドで呈示したものより1枚多い）があります。（写真や地図の一覧ワークシート配付）その12枚がそれぞれ、あ、この写真はCwの写真だな、これはCsの写真だな、これはCfaかな、て感じですね。何も見ずにですね、まず個人で3分、ちょっとやってみてください。ですので、気候区のところはこの4つのどれかを入れる。

Ss (個人思考-ワークシート記入-図4)



図4

グループ活動指示 1

T 次はグループになってください。今からヒントカードを配ります。(ヒントカード配付) 今配ったヒントカードを見ながら、気候区の記号を入れてください。

Ss (グループ活動)

ヒントカードは、世界地図と語群で構成されている。世界地図は温帯気候の各カテゴリーにあてはまる地域を色分けして印刷してある。語群は、12枚の写真と地図に関する、次のような言葉がリストされている。「ア. サンフランシスコ(シリコンバレー) イ. 偏西風と北大西洋海流 ウ. 地中海地方 エ. 香港 オ. オリーブカ. 九年庵 キ. 風車 ク. 築地松 ケ. コルク コ. 地中海性気候 サ. ウィンブルドン選手権 シ. カリフォルニア」

グループ活動指示 2

T はい、そしたらですね、次は教科書とか図表をちょっと見てからやってください。教科書と図表。ここに温帯の特徴とか載ってるところがありますんで、見ながらやってみてください。

Ss (グループ活動)

全体確認

T はい、そしたらですね、1番からやっていきます。1番何になりましたか? 1番(ギリシャ)。

Ss Cs, Cs。

T Cs, Cs以外になった人とかいますかね。…これCsですね。これ1回やってますけど、夏に乾燥するので、夏の「暑い暑い暑いよー」っちゅうところで窓を小さくしたりですね、家も白く塗って光の反射を防ぐとか、っちゅうのもあるし、景観を損なわないために家を建てる時はこの辺みんなこう白く建てたりするというので、これ地中海地方の代表的な建物っていうか景観。Cs。はい次、2番(夜景)。1班、これ何にしましたか。

S Cw。

T はい、Cw。これは図表で見てもらったと思いますけど香港です。香港の100万ドルの夜景ち。聞いたことないですか。香港はですね、冬に乾燥しています。日本みたいに寒くなくてあたたかい日が多いってことで、冬でもけっこう半袖とかね。

(後略)

以上が、中尾の看図アプローチ授業である。このあと、約10分間使って、看図アプローチを用いない普通のドリル形式の大学入試対策授業も行った。

中尾は、今回の授業に関するふりかえりというよりも、看図アプローチそのものについての感想をまとめている。それを以下に紹介する。

「看図アプローチに出会って」(中尾慎矢)

私が、看図アプローチに出会ったのは校内研修で鹿内先生にお会いしてからである。それまでの自分の授業を振り返ってみると、生徒に一斉講義するだけの自己満足の授業だった。

しかし、鹿内先生による「看図アプローチ」の研修を受けて、それまでの一斉授業から「看図アプローチ」を取り入れた協同学習の授業スタイルに挑戦してみた。地理の授業では視覚的に捉えさせることが大切だと考えていたので「まさに、これだ。」と感じた。初めは試行錯誤の繰り返しだったが、真っ先に取り入れたのは、日常生活で見えるもの全てが教材だという考え方である。常にアンテナを張り、授業で使えるような写真を撮ることから始めた。生徒には授業の導入で私が撮った写真を見せ、考えさせることから始めていった。

授業を繰り返していく中で、まず私の中の授業に対する考え方が180度変わっていった。一斉授業をやっていた時の教材研究や授業準備をしている時間は辛い時間だけが過ぎていくものだった。しかし、写真や図を模索する「看図アプローチ」を取り入れた授業準備は楽しくて仕方がない。また、授業中も準備した知識を教え込む一斉授業では、生徒の反応も悪く不安の連続で、教材研究→授業→不安の繰り返しだった。しかし「看図アプローチ」を取り入れた協同学習スタイルに変えていくと、生徒の表情や取り組む姿勢が少しずつ変化していくのが見えてきて、授業準備が楽しくなり、次の授業が楽しみになってきた。まさに「看図アプローチ」との出会いに感謝している。

「看図アプローチ」は、生徒・私(教員)にとってWIN・WINの関係が築ける授業スタイルだと思う。今後も「みること」に重点を置き、そこから生徒自身に考えさせる授業展開のために写真や図をたくさん収集し、生徒自身の書く力・想像力・表現力などを身につけさせていけるような、授業作りに取り組んでいきたい。

III-3 数学の授業

石山は、上掲の2人とは異なる切り口で、看図アプローチを授業づくりにいかしている。石山は、看図アプローチを支える「思想的」な部分に着目している。そのため、ここではまず、石山の考え方から紹介していく。石山は何を考えて、どのように看図アプローチを授業づくりに活用しているのだろうか。このことをまとめた小論を載せておく。

数学を学習する上で重要な「見る」ということ (石山信幸)

今まで私は、図形やグラフに関しては、それらを「見て」解いていくことは当然のことであり、2次関数の放物線や、図形の補助線なども、生徒の過去の学習経験から表現すべきであると考えていた。しかし、これでは「一度経験しなければ使えない能力」となり、これからのアクティブラーニングで行われる授業には対応できない。生徒にその場で考えさせ、判断させ、表現させる、いわゆる学力の三要素を駆使した授業を目指すのならば、その目的に合った方法を取り入れ、実践していかなければならない。

そこで、看図アプローチの「見る」には、多くの学習課題を解決するだけでなく、生徒がこれから身に付けなければならない能力を伸ばすような手立てがあり、場面場面で上手く授業に取り入れることが必要であることが分かり、すぐに実践するようになった。

私は現在、教科書の読解を中心とした授業展開を行っているので、教科書や参考書の解答・解説を生徒が自分で読み取れることが主となる。しかし、その教科書の解答例と生徒の能力とのギャップが生じ、「教科書を読んでも解らない」という現象が、生徒のやる気を下げている原因の一つとなっている。しかし、解答全体を「一枚の写真」として生徒に見せ、「見る」ことを意識させながら行うことで、実際に解答例の中の一行一行を自分の言葉で繋げることができた時に生徒の理解度や学習意欲が飛躍的に高まっていることが分かった。私は、これを「数学流、行間を読む」と言っている。この方法によって、生徒は、教師の板書にも自分で考えながら読み解くことができるし、解答を自分で読むようになり自学にも役立ち、質問の回数も減った。さらに、実際のお教室の生徒の「不備の多い解答」を拡大して黒板に張り、全員で他者に伝わるように改善していく授業をすることによって、生徒一人ひとりがきちんとした解答を自分の言葉で書くことができるようになった。

石山の授業の特徴は、「解答全体を『一枚の写真』として生徒に見せ」ているところにある。そして、その「一枚の写真」をよく「看せる」ことにより、理解度や学習意欲を向上させている。つまり石山は、授業の中で「メタ認知指導」を行っているのである。

数学授業における「メタ認知指導」を扱った最近の書物としては、『メタ認知の教育学』(邦訳 2015)をあげることができる。この中で、効果的なメタ認知指導の条件があげられている。「効果的なメタ認知指導には、明確に内容が示されていること、教科に組み込まれていること、長期的な訓練を伴うこと、学習者にその長所を伝

えることが必要である。(邦訳 2015, p.67)」

石山は、まさにこのことを日常の授業の中で実践しているのである。この実践は「メタ認知の力を理解しているが、それを実際の授業において、具体的にどのように指導したらよいのか、それを知りたがっている(篠原他 2015, p.274)」日本の教師たちにとって貴重な情報となるものである。このため、本来ならここで石山の授業記録も紹介すべきかもしれない。しかし、石山の実践は優れて独創的なものである。いずれ石山自身が自らの手で体系化し、世に問うていくべきものである。そのため、本稿では、石山の考え方の紹介のみにとどめ、授業の記録は割愛する。

IV. まとめと考察

担当教科が異なる3人の教員が、看図アプローチを使った授業づくりを行った。佐田は古典を読むための導入として看図アプローチを活用した。「古典を読む」ことはこれまで生徒たちから嫌われることが多かった。佐田は看図アプローチによる授業によって、古典を読むことに対する動機づけを高めることに成功している。佐田は、今回の授業が初めての看図アプローチ実践であった。中尾は、看図アプローチを活用しやすいという「地理」の教科としての特性を充分にいかしている。佐田は「教諭」として教壇に立つのは1年目、中尾が「教諭」になるのは来年度からである。2人のような若手教員でも自らの創意工夫によって看図アプローチを使いこなしている。中堅教諭の石山は、看図アプローチの「考え方」の部分の授業づくりをいかし、独創的な数学授業をつくり上げている。今回の3つの実践では、教員のキャリアに関わりなく看図アプローチ授業がつけられること、またキャリアや教科に応じて様々な授業がつけられること、が示されている。看図アプローチを活用した授業づくりレパートリーを広げるといふ、本研究のひとつの目的は達成された。授業づくりレパートリーを今後さらに広げていくことが課題である。

本研究のもうひとつの目的は、看図アプローチによって教師自身のアクティブラーニングが促進されるかどうかを検証することであった。佐田は次のように書いている。「古典に興味を持たせるということに関して、看図アプローチは非常に有効だ。授業をしている私自身も非常に楽しい。…今後は、見せるビジュアルテキストの研究を重ねてより一層の興味を引き出していくようにしていきたいと思う。」中尾は次のように書いている。「写真や図を模索する『看図アプローチ』を取り入れた授業準備は楽しくて仕方がない。」佐田・中尾ともに、看図アプローチを取り入れることにより「授業づくりあたま」にスイッチが入っている。そして「脳がきもちよく回転」し始めている。これは鹿内のアクティブラーニングの定義に完全に合致する。しかも、看図アプローチを用いれ

ば、生徒たちのアクティブラーニングも促進することができる。このことも佐田・中尾ともに体感している。

石山は、看図アプローチの考え方を数学授業における「メタ認知指導」に役立てている。生徒たちが主体的に学んでいくための方法を、石山自身が主体的に考えているのである。佐田・中尾・石山ともに、看図アプローチを取り入れることにより自らのアクティブラーニングを実現している。そのことによって生徒たちのアクティブラーニングも促進している。中尾の言葉を引用すれば、『看図アプローチ』は、生徒・教員にとってWIN・WINの関係が築ける授業スタイル」なのである。

本研究に参加した高校教員は、いずれも協同学習を用いていた。看図アプローチは、協同学習との親和性がきわめて高い。今後は、看図アプローチ協同学習をキーワードにした授業づくり研修も継続的に展開していきたい。

文 献

溝上広樹他 2016 「高校生物における看図アプローチを利用した授業実践」『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』(印刷中)
 OECD 教育研究革新センター(編) 篠原真子他(訳) 2015

『メタ認知の教育学ー生きる力を育む創造的数学カー』 明石書店
 鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看図作文の授業』 春風社
 鹿内信善 2010 『看図作文指導要領ー「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスンー』 溪水社
 鹿内信善 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち●看図作文レポートリー●』 ナカニシヤ出版
 鹿内信善 2015a 『改訂増補協同学習ツールのつくり方いかし方ー看図アプローチで育てる学びのカー』 ナカニシヤ出版
 鹿内信善 2015b 『『見ること』から始める授業づくりー看図アプローチとは何か』『看護教育』第56巻8号 pp.774-779
 鹿内信善 2015c 「看図アプローチ協同学習による幼稚園教育実習事前指導」『協同と教育』11号 pp.7-13
 鹿内信善他 2016a 「看図アプローチへの招待 1 授業に協同学習を取り入れたいのですがーそれなら看図アプローチです」『看護教育』第57巻1号 pp.774-779
 鹿内信善他 2016b 「看図アプローチ協同学習で克服する和食給食食べ残しー授業モデルの提案ー」『福岡女学院大学人間関係学部紀要』(印刷中)
 篠原真子他 2015 「訳者解説」『メタ認知の教育学ー生きる力を育む創造的数学カー』 明石書店 pp.267-275

